

《新会員のひと言》

協会の活動を楽しみに

片倉 昭良

ポーランド文化協会という文字が目に入ったのは「まんまる新聞」という地域の新聞に載った「午後のポエジア」6 (2016.6) のお知らせでした。大変興味を覚え、何か私に大きな喜びを与えてくれるような出来事を感じたのでした。会場も北大のクラーク会館、是非一度行ってみたかったところの一つでした。



東京より厚別区もみじ台に転居して一年になりますが、札幌の町が良く分かりません。クラーク会館になかなか行き着けず、開始時間に間に合わず帰りかけた時にスタッフの方に「入ってください」と声をかけられ、本当にホッとしました。

今年で七十九歳になりました。元気に生きて行けば素晴らしい人生が待っているのですね。創意工夫された演目を見ること聞くこと、またポーランドの方々の音楽、紙芝居など新鮮で心に響きました。

朗読会の後お茶会に出て、ポーランドの方々、日本の方々同席で、ポーランド大使館のご好意により美味しいワイン、ビール、オードブル、ケーキ、餃子などを沢山いただき、本当に良かったです。

会長にお願いして新会員に入会できたこと心から喜んでおります。これからポーランドの人々と共に楽しく思い出を作って行き末長くこの協会が続いて行くことを心から願い皆様のご健康を祈って、またお会い出来ることを楽しみにしています。

(かたくら・あきよし)

ポーランド音楽に魅せられて

徳田 貴子



私とポーランドの出会いは月並みですが、ショパンのピアノ作品を通してでした。アメリカでの10年間のピアノ留學生活の中でケビン・ケナー (Kevin Kenner) 教授と出会い、ポーランド生活が長かった教授の教えを受け、博士論文でポーランドの女性作曲家グラジナ・バツェビチ (Grażyna Bacewicz, 1909-69) のピアノソナタ第1番、第2番を研究したことから、

ポーランドが身近に感じられるようになりました。

タトラ山脈のマズルカや、オベレク(ポーランド民族舞踊の中で最もテンポの速い踊り)のリズムはとて自然に感じられ、北海道の自然や生命力の強さに通じるように思えました。バツェビチは自身の作品についてあまり語らなかつたのですが、彼女の作品自体が当時の政治状況の中での人々の感情を代弁していると強く感じるようになりました。

どの作曲家の作品にもそれぞれの時代背景の影響が現れるのは当たり前ですが、社会主義リアリズムが強制された時代に、限られた表現手法の中で限界まで曲に創造性を込めた彼女の作品に強く魅せられ、これからもより深くポーランドの、特に20世紀のポーランド人作曲家の作品について勉強していきたいと考えております。

10年日本を離れている間にすっかり浦島太郎になってしまいましたが、北海道ポーランド文化協会を通じて、ポーランドという国、またその音楽、芸術への理解をより深め、自らの演奏活動にもつなげていけたらと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(とくだ・たかこ)

よろしくお願ひします

水上 淳也

ポーランドという国について、私の知識は全体の0.01%以下ではないかと思ひます。

子供の頃から外国に魅かれ、今でも書店では必ず翻訳文庫の棚に向かひます。



1958年生まれで、シャーロックホームズやクリスティ、もっと小さい頃はディズニーの絵本を読み、隣町の浦河町の映画館にディズニーの映画を観に行っていました。母はおんぶして私を連れて行ったそうです。音楽も好きで、中学の時、ビートルズは解散の頃でしたが、それ以来、聴くのはほとんど洋楽ばかりです。

西洋は私にとってロマンですが、海外旅行はグアム島に2回だけという寂しい経験しかありません。ロンドンやサンフランシスコ、ボストン、オランダなど、旅行ではなく一年、三年と暮らしてみたいという願ひがありますが、ずっと仕事ばかりの生活で、海外どころか、旅行と言えれば日帰りドライブ位です。

冒頭に戻って、ポーランドのことはほとんど何も知りません。ただ人類の歴史について、特に二十世紀の戦争等の非人間的事象の数々、市井の

人々のおびただしい苦難、弱い人々を守らない社会とその弱い人々の逞しさ豊かさ——歴史は苦手で秀吉や信長などにはあまり興味はないのですが——これらについては強く心を動かされるのです。

これから可能な限り協会のイベント等に参加させて頂き、書かれた物、写された物等と出会いたいと思っています。入会をお誘い頂いた松山様に感謝すると共に、会員の皆様のご健康をお祈りします。

(みずかみ・じゅんや)

感動的なものでした。とくに、サハリンに流刑されたピウスツキとアイヌの女性との結婚、彼が刑を終えてポーランドに帰る際の別れ、その悲しみにもかかわらず人間愛にみちた詩の朗読が印象的でした。



ワイドファンの一人でもあって、多くの作品を見してきました。先日は彼の遺作『残像』を鑑賞しました。党の政治体制が大学教授の職を奪い、芸術家の表現の自由を奪っていく様が活写されていました。

ポーランド文化協会の行事に参加させて頂いて、その国の文化を多様な視点から紹介されていることに感心しています。それが入会の直接的動機ですが、もう一つはポーランドでいわゆる「社会主義」体制が崩壊した、その数年後にワルシャワ、グダニスクなどの都市、さらにアウシュヴィッツ強制収容所などを見学して、歴史に翻弄されながらもたくましく生きる民衆の姿への想いとも重なって、今回入会の運びになりました。

(さとう・せいいち)

協会の行事に参加して

佐藤 清一

「ポーランド映画祭 2017 in 札幌」でワイドの『灰とダイヤモンド』『夜の終りに』などを鑑賞し、久山宏一さんの解説もわかりやすく面白かったです。

その後、5月には詩劇『ピウスツキ』が江別で行われ、詩の朗読とピアノやアイヌ民族の楽器ムックリなどの演奏があり、内容的にもとても深みのある

♪〈後援〉第19代札幌コンサートホール専属オルガニスト

マルタン・グレゴリウス(ポーランド出身)デビューリサイタル

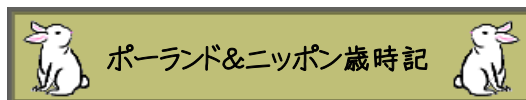
J.S.バッハ: パッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582

M.グレゴリウス: 即興による舞踏組曲 ほか

会場: 札幌コンサートホール Kitara 大ホール

日時: 2017年10月7日(土) 14:00~15:30(13:30開場)

入場料(全席指定): 一般 1,000円、各種割引 500円



湖畔で

ポズナンの中心からほんの少し離れた所に湖がある。夏にはそこで水着になって日焼けしたり、泳いだりする。ちょっと信じられない自然とのふれあいかもしれないが……。

leżak nad wodą

寝そべれば

lipcowy wietrzyk igra

入道雲と

z pierzastą chmurą

風遊ぶ

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

stukot klawiszy

キーボード

na ekranie laptopa

パチパチ——画面に

już wschodzi słońce

陽が昇る

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョートル・ヴジェチョノ

反逆の大地炎暑のポーランド
残像はマルクス、レーニン雷と電
サキノフは今何してる夏の雲

岩見沢市、霜田千代磨